

# 四川宋朝体 *Combination 3*

漢字書体の四川宋朝体「龍爪」に和字3書体がセット。  
もとい龍爪 さきがけ龍爪 かもめ龍爪

# 四川宋朝体

しせんそうちようたい

四川省は中国の南西部にあり、ふるくは蜀とよばれていました。唐王朝末期の木版印刷術の発祥地のひとつで「蜀大字本」と呼ばれ、「字大如錢、墨黒似漆——文字は古銭のように大きく、文字の墨の色は黒漆のように濃い」とされます。

唐王朝ののち、五代十国の混乱をへて建朝された北宋時代にも、唐王朝官刊本の伝統的な体裁を四川刊本は継承していました。また女真族の金国との争乱に敗れ、都を開封から臨安（現・杭州）に代えて建朝された南宋での、刊刻事業の継続と、覆刻のための原本の供給に、四川刊本は大きな貢献をはたしました。

ところが、こうした四川刊本も、相次ぐ戦乱と文書弾圧のなかに没して、『新刊唐昌黎先生論語筆十卷』『蘇文忠公奏議』『周礼』など、きわめて少数の書物しかのこっていません。その代表作がわが国に現存する『周

●もとい龍爪

しせんそうちようたい四川宋朝体リュウソウ

●さきがけ龍爪

しせんそうちようたい四川宋朝体リュウソウ

●かもめ龍爪

しせんそうちようたい四川宋朝体リュウソウ

礼』（静嘉堂文庫所蔵）です。『周礼』には四川刊本の特徴である顔真卿書風がよくあらわれています。

『周礼』の力強い字様には、横画の収筆や曲折に「龍爪」とされる、鋭角な龍の爪にも似た特徴が強調されています。これは起筆にもあてはまり、またどっしりとした収筆です。縦画の起筆にみられる蚕頭の筆法は『周礼』においてはさらに強靱になり龍爪に相對しています。このような顔真卿の書風が四川刊本字様となり、『周礼』にいたって「龍爪」とよばれる力強く独自性のある刊本字様へと変化したといえます。これは芸の文字として整理がすんだことをあらわしています。唐代中期の顔真卿の筆法の特徴を十二分に引き継いでいるともいえます。四川宋朝体龍爪は、このような顔真卿書風と、四川刊本字様を継承した、あたらしいデジタル・タイプとして誕生しました。

《欣喜堂 Digital Typefaces シリーズ 第7弾!》

四川宋朝体 *Combination 3*

もとい龍爪 さきがけ龍爪 かもめ龍爪

豪

●もどい龍爪

ふるい四川刊本は蜀版とも呼ばれ、文字は古銭のように大きく、墨の色は黒漆のように濃く、古来の刊本字様の伝統をよく保持しています。これは顔真卿書風を継承したもので、四川刊本字様に連なりました。龍爪の名は横画の収筆部に鋭角な龍の爪のような突起部を有しているからです。

●さきがけ龍爪

ふるい四川刊本は蜀版とも呼ばれ、文字は古銭のように大きく、墨の色は黒漆のように濃く、古来の刊本字様の伝統をよく保持しています。これは顔真卿書風を継承したもので、四川刊本字様に連なりました。龍爪の名は横画の収筆部に鋭角な龍の爪のような突起部を有しているからです。

●かもめ龍爪

ふるい四川刊本は蜀版とも呼ばれ、文字は古銭のように大きく、墨の色は黒漆のように濃く、古来の刊本字様の伝統をよく保持しています。これは顔真卿書風を継承したもので、四川刊本字様に連なりました。龍爪の名は横画の収筆部に鋭角な龍の爪のような突起部を有しているからです。

●もどい龍爪

大きく豪快に！ 小さく繊細に！  
どんな用途にも応える伝統の書体。

●さきがけ龍爪

大きく豪快に！  
小さく繊細に！  
どんな用途にも応える  
伝統の書体。

豪

●もどい龍爪

ふるい四川刊本は蜀版とも呼ばれ、文字は古銭のように大きく、墨の色は黒漆のように濃く、古来の刊本字様の伝統をよく保持しています。これは顔真卿書風を継承したもので、四川刊本字様に連なりました。龍爪の名は横画の収筆部に鋭角な龍の爪のような突起部を有しているからです。

●さきがけ龍爪

ふるい四川刊本は蜀版とも呼ばれ、文字は古銭のように大きく、墨の色は黒漆のように濃く、古来の刊本字様の伝統をよく保持しています。これは顔真卿書風を継承したもので、四川刊本字様に連なりました。龍爪の名は横画の収筆部に鋭角な龍の爪のような突起部を有しているからです。

●かもめ龍爪

ふるい四川刊本は蜀版とも呼ばれ、文字は古銭のように大きく、墨の色は黒漆のように濃く、古来の刊本字様の伝統をよく保持しています。これは顔真卿書風を継承したもので、四川刊本字様に連なりました。龍爪の名は横画の収筆部に鋭角な龍の爪のような突起部を有しているからです。

●かもめ龍爪

大きく豪快に！  
小さく繊細に！  
どんな用途にも  
応える伝統の書体。